

最新のISO情報 第43回 ISO総会報告

経済産業省基準認証政策課

ISO副会長（財務）

松本 満男

令和3年10月29日

COVID-19：徐々に回復傾向に

➤ ISO中央事務局による業務

- 事業継続戦略の下、必要な最低限の実行可能なサービス（Minimum Viable Level Service）の提供を継続。
- ISO/CSのオフィスは7月5日に再開。職員の出社は15-20%程。11月1日から「1-3-1方式」を導入予定。
- デスク予約ツールを導入（ソーシャルディスタンスの確保）。

➤ ISO/CSの財務状況（9月末時点）

- 収支は堅調（剰余金：5,539 kCHF）
- 会費支払い：86%（2021年会費）
- 規格販売：+4%、ロイヤリティ収入：+3%（2020年比）
- 支出：-7%（2021年予測比）

2021年ISO総会 開催概要

➤ 日時：9月22～24日（英国・ロンドン）



➤ 日本はリモート参加

➤ “The future has begun”をテーマに、将来のISOあり方を考察

➤ ブレイクアウトセッションテーマ

①多様性・包括性、②イノベーション、③気候変動

➤ 2022年総会：UAE・アブダビ



➤ ハイライト動画 <https://youtu.be/QTLflzHW78>

2021年ISO総会 開催概要



2021年9月22-24日

1946年10月26日



ISOホームページより引用 3

2021年ISO総会 主要議題

- 2020年会計報告、2022年ISO分担金、ISO会則改正
- 選挙：副会長（政策、技術管理）
理事会メンバー（2022-2024年）
- ロンドン宣言の採択
- アイカー賞、次世代賞の授与
- その他（基調講演・ワークショップ）

【議題6,7,10】 会計報告、ISO分担金、ISO会則改正

➤ 2020年会計報告

- 2020年剰余金：4,710 kCHF

(内訳) 1,400 kCHF：APDC 4へ割り当て

1,177 kCHF：ISO戦略プロジェクトへ割り当て

残りは一般基金へ積み増し

➤ ISO分担金 2022年ユニット単価：4,675 CHF の承認

➤ ISO会則改正

- コロナ禍に類する状況に備えた迅速な意思決定プロセスの確立
(総会の通信投票を2か月から4週間へ変更)
- 任満了前に会員資格が終了した場合の理事会メンバー交代手続
- 事務総長の署名権限の明確化 等

【議題12.2,3】 選挙結果 副会長

- 政策担当（2022-23年）

ドイツ(DIN) Christoph Winterhalter氏



- 副会長 技術管理担当（2023-24年）

スペイン(UNE) Javier Garcia氏



2022年は次期副会長職を務める

【議題12.1】 選挙結果 理事会メンバー（2022-24）

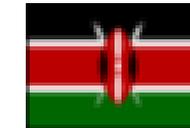
➤ グループ2：豪州、インド



➤ グループ3：マレーシア、トルコ



➤ グループ4：ケニア



2022年理事会メンバー（20か国）

欧州/中央アジア(6) : フランス、イギリス、ドイツ、ベルギー、デンマーク、トルコ

アジア/太平洋(6) : 日本、中国、韓国、豪州、インド、マレーシア

アフリカ/アラブ(5) : UAE、南アフリカ、ボリビア、ジンバブエ、ケニア

アメリカ/カリビアン(3) : アメリカ、カナダ、ペルー

【議題14】 ロンドン宣言の採択

➤ 「ISOによる気候変動へのコミットメント」



ISOは、次の事項を可能にするプロセスを開発

- すべての新規及び改正された国際規格及び出版物の開発において、気候科学とそれに関連する推移を積極的に考慮する。
- 国際規格及び出版物の開発において、市民社会及び気候変動に対して最も脆弱な人々の関与を促進する。

<https://www.iso.org/ClimateAction/LondonDeclaration.html>

【参考】 【議題14】 ロンドン宣言（全文）

OUR CLIMATE COMMITMENT

International Standards play a crucial role in underpinning the global economy, creating trust on all aspects of international trade. **ISO has a number of standards that are essential in supporting the climate agenda**; they help adapt to climate change, quantify greenhouse gas emissions and promote the dissemination of good practices in environmental management. The science is clear: the need for urgent measures to reduce emissions and help adapt to climate change is overwhelming.

Without up-to-date International Standards, industry and other stakeholders will be unable to achieve what is necessary. ISO hereby commits to work with its members, stakeholders and partners to ensure that International Standards and publications accelerate the successful achievement of the [Paris Agreement](#), the [United Nations Sustainable Development Goals](#) and the [United Nations Call for Action on Adaptation and Resilience](#).

ISO will:

- Foster the **active consideration of climate science and associated transitions** in the development of all new and revised International Standards and publications
- Facilitate the **involvement of civil society and those most vulnerable to climate change** in the development of International Standards and publications
- Develop and publish an **Action Plan and Measurement Framework** detailing concrete actions and initiatives and a reporting mechanism to track progress

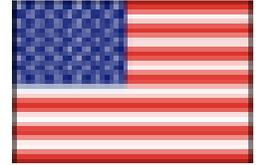
【議題16,17】 アイカー賞/次世代賞の授与

➤ アイカー賞（優秀TC賞）：

TC 184/SC 4 産業データ（幹事国：米）

2度目の受賞（2007,2021）

<https://www.iso.org/news/ref2721.html>



➤ 次世代賞

Andia Persad-Maharaj氏（トリニダード・トバゴ）

<https://youtu.be/8XSakQjaEWA>



- Cat Tully氏（School of International Futures 共同設立者）
パンデミックは未来への展望を一変。ISOは、広範囲での規格開発に早く反応し、ISO戦略ミッションに従い、世界をより良くより楽にするために、変化を加速させることが必要。
（経済と貿易、技術、環境、社会）



- ワークショップテーマ： Foresight（先見）
2040年に向けた3つのシナリオから標準化のあり方を模索。

ご静聴ありがとうございました

経済産業省基準認証政策課

ISO副会長（財務）

松本満男

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<https://www.jisc.go.jp/>